

名古屋大学 次世代バイオマテリアル領域 ハブ拠点 (2021年度-2030年度)



100台以上の最先端設備・700 m²以上のクリーンルームを有し
量子センサ、量子マテリアル、量子計測などの設備共用・研究支援
量子、バイオ、グリーンイノベーションなどの産学連携・異分野融合共同研究推進

【領域の特徴、得意技術】

バイオマテリアルは、持続可能で一人一人の多様な幸せが実現できる社会を構築するために必要不可欠な最先端基盤材料の一つであり、その研究開発はホワイトバイオからレッドバイオまで非常に幅広い分野において加速しています。本領域は、ハブ・スポーク機関が有する合成、加工、構造解析の世界有数の先端共用設備群に加えて、生体適合性検証支援のために*in vivo*実験環境の実現、高品質データ創出・収集・蓄積・構造化、データ利活用環境の構築を図ることで、データ駆動型のバイオマテリアル研究開発に貢献します。



ハブ機関：名古屋大学
スポーク機関：
早稲田大学
公立千歳科学技術大学
北陸先端科学技術大学院大学